JEITA
Japan Electronics and Information Technology Industries Association

開催日：2012年3月1日

知識情報処理技術に関するシンポジウム「復興からスマートな社会へ：個人データで絆を紡ぐ技術」

■主　　催：知識情報処理技術専門委員会
■担当部署：インダストリ・システム部
■参加者数：約60名

概　要

東日本大震災からの復興を単なる復旧ではなく創造的な再構築とし、被災地の新生をモデルケースとして日本全体を再生することが求められている中、多数の関係者の間での目的の共有が困難な状況は被災地に限りません。
これらをデジタルデータの実世界とのグラウンディングおよびデータ連携とそれに基づくサービス連携により間接業務を置換（中抜き）して、生活と生産とを直結する（絆を結ぶ）のがITのひとつの主要な効能です。ITの普及により、個人および個人のゆるやかなネットワークの役割が、既存の組織の役割に対して比重を増しつつあります。
クラウドコンピューティングは個人や小さなコミュニティをエンパワーし、Facebook等のソーシャルメディアは個人データの本人による管理・活用を普及させつつあります。たとえば医療記録や住民基本台帳のデータが失われたり、データが残っていてもそれを活用できないために、良いサービスが行き渡らないなどの問題が被災地のいたるところで発生していますが、個人データにまつわるこのような問題の解決はITの重要な使命でしょう。
本シンポジウムでは、ビッグデータやスマートシティについて個人データやプライバシの観点から検討し、復興を持続発展可能な知識社会の構築につなぐ方法を5名の講師の講演とパネルディスカッションにおいて展開しました。

JEITA
Japan Electronics and Information Technology Industries Association

プログラム

○開会挨拶
橋田浩一 氏（産業技術総合研究所）

○個人情報プラットフォームとスマートライフ
橋田浩一 氏（産業技術総合研究所）

○パーソナル情報を巡る現状と課題 ～保護と利用のバランスについて～
坂下哲也 氏（JIPDEC）

○ANPI_NLP：若手自然言語処理研究者たちの震災活動の記録
橋本泰一 氏（東京工業大学）

○岩手県における被災者台帳を活用した生活再建支援の最新動向
井ノ口宗成 氏（新潟大学）

○あなたの大切な病歴を、あなた自身で手の中に「小児がん長期ケア事業」
村田晃一郎 氏（北里大学）

○パネルディスカッション
司　　会：津田　宏 氏（富士通研究所）
ディスカッサント：橋田浩一 氏（産業技術総合研究所）
パ ネ リ ス ト：坂下哲也 氏（JIPDEC）
橋本泰一 氏（東京工業大学）
井ノ口宗成 氏（新潟大学）
村田晃一郎 氏（北里大学）

○閉会挨拶
橋田浩一 氏（産業技術総合研究所）